

アートラボはしもと再整備事業  
内装設計に係る公募型プロポーザル  
審査講評

令和5年1月

相模原市アートラボはしもと再整備事業

内装設計者選考委員会

## 目次

1. 内装設計者の募集及び選定の手順.....	1
(1) 選定方法及び募集・選定に係るスケジュール.....	1
(2) 選考委員会委員.....	1
(3) 審査及び選定の手順.....	2
2. 参加資格審査結果.....	3
3. 提案審査結果 .....	3
(1) 1次審査 .....	3
(2) 2次審査 .....	4
(3) 最優秀者及び優秀者の選定.....	4
4. 講評 .....	5
(1) 総評 .....	5
(2) 最優秀者（トミト・ANT・川見設計共同体）の提案.....	5
(3) 優秀者（岩瀬諒子設計事務所＋西澤徹夫建築事務所）の提案.....	6
5. 送送り事項 .....	6

## 1. 内装設計者の募集及び選定の手順

### (1) 選定方法及び募集・選定に係るスケジュール

相模原市（以下「市」という。）は、アートルボはしもと再整備事業（以下「本事業」という。）に係る後継施設の内装を設計する設計事務所を決定するに当たり、「相模原市アートルボはしもと再整備事業内装設計者選考委員会」（以下「選考委員会」という。）において、本件への参加を希望する設計者（以下「応募者」という。）の提案を審査した。

設計事務所の決定に当たっては、公募型プロポーザル方式を採用し、応募者からの提案を総合的に評価した。

図表1 募集・選定に係るスケジュール

①	令和4年8月24日（水）	募集要項等の公表
②	令和4年9月5日（月）	現地見学会参加申込書受付締切り
③	令和4年9月8日（木）	現地見学会
④	令和4年9月12日（月）	募集要項等に関する質問受付締切り
⑤	令和4年9月27日（火）	募集要項等に関する質問回答の公表
⑥	令和4年10月6日（木）	応募登録（参加表明書等の提出）締切り
⑦	令和4年10月14日（金）	参加表明書等の確認結果の通知
⑧	令和4年10月28日（金）	提案書（応募書類）受付締切り
⑨	令和4年11月6日（日）	1次審査
⑩	令和4年11月18日（金）	1次審査結果の通知
⑪	令和4年12月3日（土）	2次審査兼公開プレゼンテーション
⑫	令和4年12月8日（木）	最優秀者・優秀者への選定通知

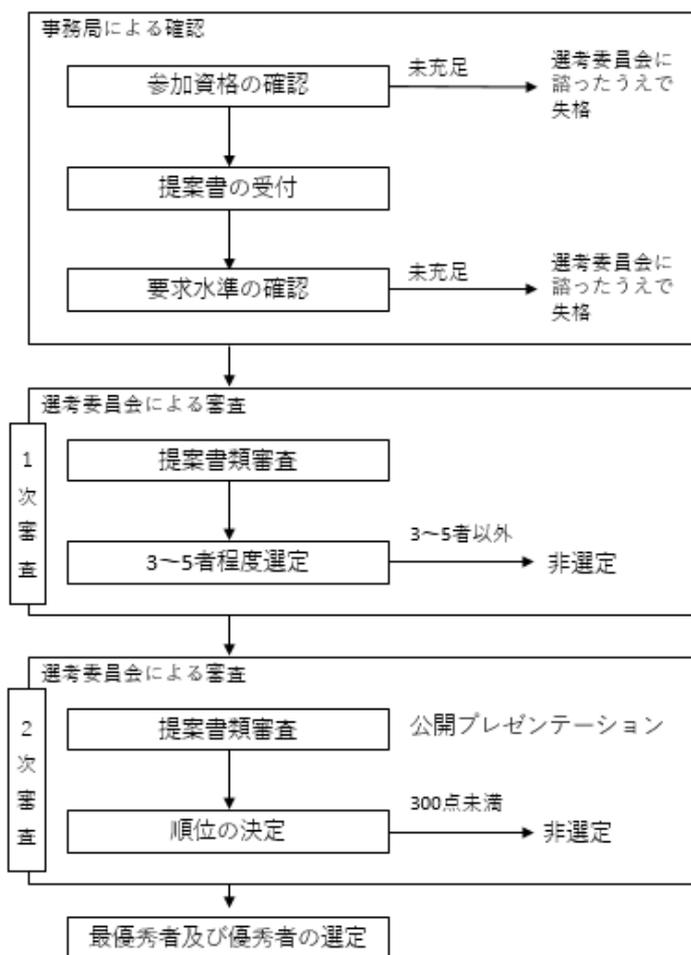
### (2) 選考委員会委員

役職	氏名	所属
委員長	森脇 裕之	多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授
副委員長	佐藤 慎也	日本大学理工学部建築学科教授
委員	小林 貴史	東京造形大学造形学部教授
委員	服部 浩之	東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻准教授
委員	山岸 綾	中部大学工学部建築学科准教授 一級建築士事務所サイクル・アーキテクト代表
委員	横山 勝樹	女子美術大学芸術学部デザイン・工芸学科教授

### (3) 審査及び選定の手順

最優秀者及び優秀者の審査・選定は、事務局による確認及び選考委員会による審査に基づき実施した。

図表 2 審査の手順



## 2. 参加資格審査結果

市において、令和4年10月6日までに参加資格審査申請を行った32者について、募集要項等に示す参加資格要件を確認し、参加資格を満たしていることを確認した。

また、応募者にそれぞれプロポーザルNo.を1番から32番まで付番し結果を通知した。

## 3. 提案審査結果

### (1) 1次審査

応募者から提出された32者の技術提案書類の内容について、2次審査に係る審査基準の視点を踏まえつつ非公開で審査を行った。

審査は投票方式により計3回行い、投票後に各委員より評価した事項を説明した後に、投票数の多い提案から2次審査へ進出することとした。

その結果、1次審査の通過者について、以下の5事務所(設計共同体含む)を選定した。

【実施日】 令和4年11月6日(日)

【会場】 サン・エールさがみはら(相模原市立勤労者総合福祉センター) 第1研修室

図表3 1次審査通過者

プロポーザル No.	設計事務所(設計共同体)名
No.2	n m s t u d i o + 野副晋平建築計画
No.3	ムトカ建築事務所
No.19	トミト・ANT・川見設計共同体
No.20	岩瀬諒子設計事務所+西澤徹夫建築事務所
No.29	B2A+ON

## (2) 2次審査

1次審査通過者の技術提案内容及び通過者によるプレゼンテーションについて、基準点を300点、最高点を450点として審査基準に示す項目ごとに厳正かつ公正に審査を行った。なお、プレゼンテーションは公開で実施し、事前申込制により傍聴者を募集した。

2次審査の結果については以下のとおり。

【実施日】令和4年12月3日(土)

【会場】ソレイユさがみ(相模原市立男女共同参画推進センター)セミナールーム1

【傍聴者数】55名

図表4 2次審査の結果

審査項目	基準点	No.2	No.3	No.19	No.20	No.29
設計コンセプト	70.00	78.33	82.92	88.75	86.67	81.67
フロアの想定ゾーニング (諸室配置・館内動線計画)	60.00	70.00	67.50	71.67	75.00	68.33
プログラムに与える効果 (発展性)	40.00	45.42	42.08	51.67	49.58	46.25
持続可能な施設運営	30.00	32.08	34.58	35.00	32.08	35.83
複合施設内に設置される 民間施設との連携	30.00	30.00	32.92	33.33	32.92	31.67
公園との連続性	20.00	24.58	21.67	23.75	24.17	24.17
ヴィジュアル・アイデン ティティ(VI)	30.00	32.50	32.50	33.75	32.50	35.00
プレゼンテーション	20.00	25.00	27.08	27.92	28.33	26.25
合計 (小数点第2位を四捨五入)	300.0	337.9	341.3	365.8	361.3	349.2

## (3) 最優秀者及び優秀者の選定

以上の審査結果を踏まえ、プロポーザルNo.19を最優秀者に、また、プロポーザルNo.20を優秀者として選定した。最優秀者及び優秀者は以下のとおり。

【最優秀者：プロポーザルNo.19】 トミト・ANT・川見設計共同体

【優秀者：プロポーザルNo.20】 岩瀬諒子設計事務所＋西澤徹夫建築事務所

## 4. 講評

### (1) 総評

本プロポーザルは、民間事業者が今後新たに整備するアートラボはしもと後継施設の設置方針を理解した中で、内装設計を行う設計者を選定するという難易度の高いものであった。本プロポーザルに係る質疑応答では、後継施設の外観等に関する意見も多く寄せられ、今後の設計協議次第ではあるものの、内装に関連して外装等についても提案することを可としたことで、提案内容の幅が広がったところであった。

そうした中で、アートラボはしもとの再整備に向けたこれまでの検討経過や橋本地区の特徴を踏まえるとともに、現行の教育・普及に特化した施設特性を継承し、同施設の展開するアートプログラムにより、アートを通じてより活発な交流が生まれる美術施設として整備するため広く技術提案を求めたが、応募者の提案はいずれもこれまでの取組を十分に理解した中で、活動や運営に関するアイデアを積極的に提案するものであった。

また、応募者は新しく生まれ変わる（先進的・実験的に相応しい）施設を共に創るという高い意欲を持ち合わせており、市や本委員会が求めた理想とする設計者に多く参加いただけたことは大変有意義であった。

各提案はいずれも斬新でかつ創意工夫に富んだものであり、通常の公共事業では想像しえない公募型プロポーザルならではの意欲的なものであった。貴重な提案をいただいた応募者の皆様には心より御礼申し上げますとともに、今後の施設整備に期待いただきたい。

### (2) 最優秀者（トミト・ANT・川見設計共同体）の提案

最優秀者の提案は、市民・アーティスト・美大生など様々な主体が活動する状況を想定した「ミックスラボ」をテーマに、まち・ひと・出来事が出会い混ざり合う中で、多様な活動の連鎖が生み出され、多様な年齢層の利用が期待できる設計コンセプトであった。

橋本地区の特徴やアートラボはしもとの存在を地域との関わりや歴史的知見を含めて捉えており、設計プロセス（ヴィジュアル・アイデンティティを含む）から協働・協創する取組としてワークショップの開催や設計分室の設置を提案していた。そうした独自の取組を含めて設計プロセスを提示しており、共に作り上げる姿勢はアートラボはしもとらしさが感じられ、夢を形にしようとする高い意欲があった。

また、フロアの想定ゾーニングやプログラムに与える効果（発展性）についても、これまでのアートプログラムをさらに発展させるものであり、クラフト（小さな工作）による可変性の高い諸室の設定やセミフロアの設置など、独自のアイデアを盛り込んだ将来性や可能性を感じさせる提案であった。特にセミフロアは、設備を集約した中で将来的に発生する修繕やメンテナンスのほか、キャットウォークを設けることで作品等の吊り作業や照明・音響等の調整をしやすくするなど、施設の管理運営面を踏まえた特徴的な提案であった。

新施設を市民、市、優先交渉権者等と共に創るという姿勢を持ち合わせており、そこから生じる将来の可能性を含め評価した。

### (3) 優秀者（岩瀬諒子設計事務所＋西澤徹夫建築事務所）の提案

優秀者の提案は「顔が見えるアートセンター」をテーマとしており、来館者が建物に入ってきた際に大きな受付があり、スタッフの居る場所から話が始まっていく流れはアートラボはしもとらしさを感じさせるものであった。また、作業室を使用する際にスタッフが近くにいた方が効率的と捉え事務室を隣接させるとともに、スタジオ小をパフォーマンスで使用することを想定し、スタッフルーム等で敢えて周囲を囲むことで、いろいろな方向から出入りが可能とする視点は、合理的な諸室配置であり、新しいタイプの施設として提案がなされていた。

一方で、2階の諸室の利用を考えると、廊下やロビーの幅が建物の規模感を踏まえるとやや狭く、使用時に制約が生じることが懸念された。

提案内容は建築的な完成度が高く、将来的な運営面を踏まえていたことを評価した。

## 5. 送り事項

最優秀者の提案内容は自由度がある一方で、設計プロセスの具体化にあたって優先交渉権者や市との調整のほか、更なる検討を要する事項も見受けられた。今後は、提案内容の実現に向けて、以下の点に十分に配慮されるよう選考委員会として要望する。

1. セミフロアに係る活用方策をより具体化し、管理運営面と併せてより詳細な検討を進められたい。
2. 設計プロセスで示すヴィジュアル・アイデンティティの検討も含めた作業工程の詳細を詰め、分室の設置やまちあるきリサーチワークショップの実施など特徴的であった対話から考える取組を着実に進められたい。
3. アートラボはしもと後継施設は単独の公共施設となることから、市側の要求に真摯に向き合うとともに、優先交渉権者と協議しながら作り上げる姿勢のもと取り組まれたい。

令和5年1月18日

相模原市アートラボはしもと再整備事業  
内装設計者選考委員会

委員長 森脇 裕之

副委員長 佐藤 慎也

委員 小林 貴史

服部 浩之

山岸 綾

横山 勝樹